

# ダム管理施設の老朽化対策、堆砂対策【国土交通省】

**施策概要** ダム管理施設の老朽化対策や、ダムの洪水調節容量内に堆積した土砂等の撤去等を実施

**効果** ダム管理施設のライフサイクルコストを縮減できるとともに、土砂等の撤去によりダム機能を維持することで、下流河川の洪水被害を軽減

## 全国的な対策と効果

**対策1** 健全度評価において「速やかに措置を講じる必要がある」と評価された施設の修繕・更新を実施



ゲート塗装(耐久性の高い塗料を使用)劣化状況を評価の上、更新

5か年加速化対策による老朽化対策の実施状況	
管理者	予防保全措置段階のダム管理施設数
国土交通省管理ダム	14 (R1)⇒ 3 (R6)
水資源機構管理ダム	6 (R1)⇒ 1 (R6)
道府県管理ダム	45 (R1)⇒10 (R6)
合計	65 (R1)⇒14 (R6)

**対策2** ダムの洪水調節容量内に堆積した土砂等の撤去や、恒久堆砂対策施設を整備

① 令和2～6年度にかけて、洪水調節容量内に堆積した約540万m<sup>3</sup>(ダンプトラック約108万台)の土砂を撤去し、洪水調節容量を確保



京都府 高山ダム



長野県 美和ダム

② 都道府県が管理するダムにおいて、恒久堆砂対策施設を整備



埼玉県 合角ダム



貯砂ダムの設置

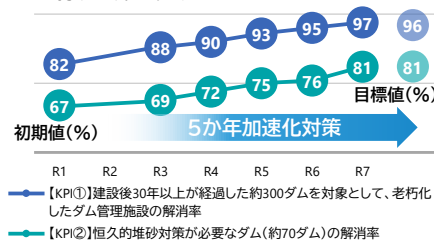
➢ ダムの機能維持により、令和6年では、国土交通省所管ダムにおいて、のべ863回の洪水調節を行うなど、下流河川の洪水被害を軽減した。

## 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
182億円	116億円	127億円
R6	R7	累計
112億円	147億円	684億円

※ 予算額(国費)(加速化・深化分)は、対策番号80-(1)と80-(2)の合計額を記載  
 ※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

## 目標達成の見通し



## 整備事例

貯砂ダムの整備により洪水調節機能を維持し、下流河川の洪水被害を防止・軽減する



埼玉県



はんのう 埼玉県飯能市



有間ダム 防災・安全交付金事業等

## 有間ダムの貯砂ダム整備状況



貯砂ダムの設置により堆砂を防止し、ダムの洪水調節機能の維持が可能に

## 事業費

2.6億円 (うち5か年加速化対策(加速化・深化分)2.6億円)

## 事業の背景(地域の課題)

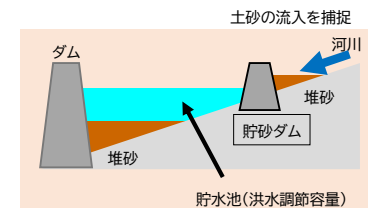
入間川下流域では、都市化により人家が密集し、出水のたびに被害が発生していたため、根本的対策が必要でした。そこで、入間川総合開発事業の一環として、1986(昭和61)年3月に有間ダムが建設されました。ダムでは貯水池へ流入する土砂を貯めるための堆砂容量を確保していますが、計画時の年推定堆砂量を超える土砂が流入する状況となっており、ダムの洪水調節機能を維持できなくなるおそれがありました。

## 事業の内容

有間ダムではダム貯水池への流入する土砂を低減するために、貯水池上流部に土砂を捕捉するための貯砂ダム(捕捉量17,000m<sup>3</sup>)を築造しました。

## 見込まれる効果

ダム本体の貯水池上流域に貯砂ダムを整備したことにより、堆砂の進行を抑制することが可能となりました。これにより、ダムの洪水調節機能を維持し、下流河川の氾濫被害を減少することができます。



貯砂ダムによる効果イメージ図

(1) 人命・財産の被害最小化  
 1 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

(2) 交通・ライフラインの維持

2 インフラの老朽化対策

(1) 3 国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進

(1) 3 施策のデジタル化

(2) 災害関連情報の高度化